

◇編集後記◇

暑中お見舞い申し上げます。

近年、熱中症が従来の高温作業環境下の労働者だけではなく、日常生活においても発生するようになっていきます。むしろ、労働者における発生は減少し、高齢者における発生が増えているようです。

本号には、許容濃度等の勧告が掲載され、この中の「高温の許容基準」では、最も緩い極軽作業における許容温度が31.6℃となっています。

ヒートアイランド現象や地球温暖化により、最近の大阪では32℃を超える日が80日近くあります。労働の場の許容基準を超えてしまう環境が一般環境で日常見られるのですから、調節機能が低下している高齢者が熱中症により死亡することも多々あると思われます。そのため、環境省は「熱中症 保健指導マニュアル」を作成しています。これを見ますと、治療や予防を含め産業衛生の現場の様々なデータが引用されていることが判ります。

熱中症のみならず、現在一般環境では、金属や化学物質が問題となり、その対策のためには産業衛生の場から多くのデータが提供されています。JOHや産衛誌から発信された情報が、産業衛生にとどまらず、広く日常生

活の安全を守ることにもなりますので、本誌は専門性の高い情報だけではなく、広い範囲において使われる情報を掲載する学術誌であることを認識する必要があると思います。

許容濃度の勧告の起案におきましても、有害性に関するポジティブデータのみならず、ネガティブデータや曝露の実情を報告した論文が許容濃度設定のキー論文になりますので、会員の皆様がそのような報告を本誌に投稿してくださることを心待ちにしております。

また、当学会ホームページへのアクセスが和文誌のpdfファイル化により急増し、広く読まれるようになりました。論文誌としての評価をさらに向上させるためには、掲載論文が引用されることが重要ですので、アクセス後に貴重なデータとして引用していただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、今後3年間副編集委員長として手伝いさせていただきますので、宜しく御願いいたします。

(圓藤陽子)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：竹下達也（和歌山医大）

副委員長：圓藤陽子（東京労災病院）、武林 亨（慶應大）、堤 明純（岡山大）、

本橋 豊（秋田大）、森 満（札幌医大）

荒木田美香子（大阪大）、有澤孝吉（徳島大）、市場正良（佐賀大）、掛本知里（東京女子医大）、上島通浩（名古屋大）、車谷典男（奈良医大）、甲田茂樹（高知大）、河野公一（大阪医大）、西條清史（金沢大）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（産医研）、塩飽邦憲（島根大）、笹島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、谷川 武（筑波大）、錦戸典子（東海大）、橋本英樹（帝京大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、保利一（産業医大）、森河裕子（金沢医大）、森田 学（北海道大）、森本泰夫（産業医大）、八幡勝也（ヒューマンメディア財団）、若林一郎（山形大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番